

お
手城
紙か
姫路発
VOL.95 2024 SPRING
Himeji Discovery Magazine
らの
の



姫路城の
バッファゾーン



姫路城
世界遺産登録
30周年記念

城西

天正8(1580)年、英賀城を攻略した羽柴(豊臣)秀吉が、英賀の町人・百姓を移してきたと伝えられる龍野町。以降、船場川の水運が発展すると材木町や小利木町、博労町などの町が発達していきました。西国街道が東西を貫き、姫路の中でもにぎわう場所でしたが徐々に空洞化したことから活性化の取り組みが進んでいます。



江戸時代の城西エリアは東西を西国街道が貫き、商家が立ち並んで発展しました。今に残る商家の姿は少ないものの、姫路を代表する歌人・故初井しづ枝が住んでいた「初井家」(非公開)などに江戸の城下町の雰囲気を感じることができます。また、江戸や明治時代から同じ商売を続けている老舗も多く、お店を訪ねると興味深いお話がいろいろと伺えるのも魅力です。興味のある方は、「歴史と出会えるまちづくり 船場城西の会」が開催するまち歩きイベントなどにご参加を。

城西エリアのランドマークは姫路船場別院本徳寺。姫路藩主・本多忠政が、元和4(1618)年に現在の土地を宣如上人に寄進したことから成立した寺で、400年の歴史を刻んでいます。境内には勤王の志士12名の墓標や西南の役記念碑、明治天皇の宿所として使われた行在所などがあります。

歴史と出会えるまちづくり 船場城西の会

平成15(2003)年から、町名由来板設置や町家調査、ウォーキングイベントの開催などを行っています。年に4回ほど不定期で船場御坊楽市として、本徳寺境内で野菜やスイーツ、小物などを販売。

電話/090-3351-7965(柴田さん)
<http://www.himesen.com/index.html>



ナガハマ(永浜時計店)

明治維新の際、職を失った士族たちが出資し、姫路の地で国産西洋時計の製造に挑みました。数年間しか製造されなかったというボンボン時計が「播陽時計」です。その製造に携わった子孫が店主の永濱恵悟さん。お店には当時の播陽時計とそのレプリカ、そしてモデルとなったイングラハム社製の時計が並べて飾られています。

住所/姫路市元町75
電話/079-292-4669



左からイングラハム社製の時計、当時の播陽時計、そのレプリカ



わたや 棉屋

明治13(1880)年、先祖が綿花の輸入卸を始めたのが家業の始まり。代表の澤田善弘(わたや善兵衛)さんは、座布団など手作りの木綿商品を手掛けるほか、木綿の栽培や糸の紡ぎ方、藍染めなどを広く伝える伝道師。令和4年「御国産木綿会所」を店内に設置し、木綿に触れる機会を提供しています。

住所/姫路市船丘町296
電話/079-294-5555



橋屋商店

元禄年間に妙立寺の檀家に組み入れられたとの記録がある橋屋。当主の橋本博和さんによると、池田輝政に伴って姫路入りした三河の商家という説もあるそう。今も昔ながらの麴蓋での味噌・麹造りを行っています。

住所/姫路市吉田町20
電話/079-292-0221



砂川漆工芸/砂川仏壇店

元禄年間に飾磨で塗師として創業し、明治40(1907)年に暖簾分けし西新町にやって来たという砂川仏壇店。この地で4代目の砂川隆さんは、伝統文化である祭り屋台や獅子などの祭礼品を手掛けるほか、姫路城菱の門の保存修理にも技術を発揮。

住所/姫路市西新町156 電話/079-292-8602

